

商業科 学習指導案			
単元名	第9章 商品売買の記帳 「簿記」		
単元の目標 (単元で育成する資質・能力)	①取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。 ②取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応すること。 ③取引の記帳において自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
具体的な評価規準			
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>分記法と3分法による商品売買の記帳ができる。</li> <li>仕入帳、売上帳、商品有高帳を作成することができる。</li> <li>商品売買損益の計算ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分記法と3分法の違いを理解することができる。</li> <li>仕入帳・売上帳の記帳法を理解することができる。</li> <li>商品有高帳の2種類の記帳法について理解することができる。</li> <li>3分法における商品売買損益の計算を理解し、演習問題に対して判断・表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業における日常の取引について、資料を、興味・関心をもって読み解き活用しようとしている。</li> <li>問題演習にあたり、友人と積極的に対話を行い、考えを通じた課題解決法を模索し、生徒同士の相互学習を積極的に行おうとしている。</li> </ul>	
単元計画			
次	時	評価規準と評価方法	学習活動
1	1	<b>【評価規準】</b> これまでに学んだ商品売買の記帳法である分記法と3分法の違いについて理解することができる (思考力・判断力・表現力) <b>【評価方法】</b> 行動の観察・記述の確認	分記法との違いや3分法の特徴である、繰越商品(資産)、仕入(費用)、売上(収益)の3勘定を用いた処理方法について理解し、商品売買取引を記帳する。
2	2	<b>【評価規準】</b> 商品の仕入及び返品と値引など商品売買に関する記帳法を理解し、仕入帳を作成することができる。 (知識・技能) (主体的に学習に取り組む態度) <b>【評価方法】</b> 行動の観察・記述の確認	日常の商品仕入れに関する資料を読み、適切な仕訳を行う。仕入戻しや値引、仕入諸掛について、適切な処理方法で仕入帳を記帳し、総仕入高、純仕入高を求める。
	3	<b>【評価規準】</b> 商品の売上及び返品と値引など商品売買に関する記帳法を理解し、売上帳を作成することができる。 (知識・技能) (主体的に学習に取り組む態度) <b>【評価方法】</b> 行動の観察・記述の確認	日常の商品売り上げに関する資料を読み、適切な仕訳を行う。売上戻しや値引、発送諸掛について、適切な処理方法で売上帳を記帳し、総売上高、純売上高を求める。
3	4	<b>【評価規準】</b> 先入先出法を用いて、払出単価を計算し、商品有高帳を作成することができる。 (知識・技能) (主体的に学習に取り組む態度) <b>【評価方法】</b> 行動の観察・記述の確認	「先に受け入れた単価の分を先に払い出す」こととして払出単価を決め、商品有高帳の商品受け入れ、払い出しおよび残高の明細を記録する。
	5	<b>【評価規準】</b> 移動平均法を用いて、払出単価を計算し、商品有高帳を作成することができる。 (知識・技能) (主体的に学習に取り組む態度) <b>【評価方法】</b> 行動の観察・記述の確認	「仕入れのつど、残高欄の金額と仕入金額を合計し、その合計額を残高数量と仕入数量の合計数で割って、新しい平均単価を計算する」こととして払出単価を決め、商品有高帳の商品受け入れ、払い出しおよび残高の明細を記録する。
4	6	<b>【評価規準】</b> 3分法によって記帳している場合の商品売買損益を計算することができる。また、売上帳から売上原価を読み取り、計算することができる。 (知識・技能) (主体的に学習に取り組む態度) <b>【評価方法】</b> 行動の観察・記述の確認	商品有高帳から、1月分の売上原価を読み取り計算する。また、資料を読み取り、1会計期間の純仕入高、純売上高、売上原価、商品売買損益の計算を行う。